

洗礼を考えているあなたのために



★目次★

Lesson 1	聖書について.....	3
Lesson 2	神様について.....	6
Lesson 3	人間と罪について.....	9
Lesson 4	イエス・キリストについて.....	12
Lesson 5	救いの決心.....	15
Lesson 6	洗礼について.....	18
Lesson 7	教会生活.....	21
Lesson 8	クリスチャンの生活.....	24
Lesson 9	洗礼の証しの準備.....	27

このテキストについて

このテキストは洗礼を考えているユースの学びのために作られたものです。ウェブ上にある受洗準備テキストを、ダウンロード、印刷、ファイリングの手間なく、お使いいただくための冊子版です。手間なく安価でテキストを使いたいというご要望におこたえする形で出版にいたしました。ウェブ上にあるデータをダウンロード、印刷することによって無料でもお使いいただけます。

マンツーマンでも、複数のユースとの学びでも、どちらにもお使いいただけます。また、ユースだけではなく、小学生や成人にもお使いいただける充実した内容となっています。なお、子どものための受洗準備テキスト『かがやけ★クリスチャンキッズ』、大人のための受洗準備テキスト『聖書が教えている基本的なこと』『聖書を知りたいあなたのために』（ウェブ版）もあります。詳しくは、下記サイトをご覧ください。

このテキストを通して、大切な次世代の一人お一人が、イエス・キリストに愛されている者として、この世での歩みをスタートされますよう心よりお祈り申し上げます。

なお、2018年10月発行の冊子より、Lesson9「洗礼の証しの準備」を加え、引用したみことばを新改訳聖書2017に変更しました。



ホームページ：日本同盟基督教団教育局

<http://www.edu-domei.net/>

※ウェブ版テキストはPDFのデータです。無料で提供していますが、販売に使用しないこと、改変しないことの2点をお守りいただけますようお願いいたします。

2018年10月1日

日本同盟基督教団 教会教育部

テキスト中の聖書本文は聖書 新改訳2017（©新日本聖書刊行会）を使用しています。

（ご質問・ご意見は kyokaikyoikubu@gmail.com までお寄せください）



Lesson 1 聖書について

★はじめに★

あなたは「聖書」についてどれくらい知っていますか？聖書にはどんなことが書かれていると思いますか？

聖書っていったいどんな書物なのか、いっしょに考えてみましょう。

1. 聖書はだれが書いたのでしょうか？

(1) 聖書を書いたのは？

聖書を書いた人は旧新約聖書あわせて約 40 人です。

預言者でありイスラエルの指導者であったモーセ、預言者サムエル、イスラエルの王であったダビデ、学者エズラ、イエスの弟子たち、使徒パウロなど、さまざまな職業、性格、才能をもった人々がそれぞれの書の記者です。

(2) いつごろ書かれたのか？

聖書は旧約聖書と新約聖書に分かれています。旧約聖書は BC1500 年～BC400 年ごろに書かれました。イエス・キリストが生まれ、十字架にかけられ、復活された後、新約聖書は AD50 年～100 年頃までに書かれました。旧約聖書最後の書が書かれてからイエス・キリストまでに 400 年のブランクがありましたが、実に 1600 年の年月をかけて、書かれた書物なのです。

(3) 本当の著者は？

これだけ長い時間をかけて書かれたのに、各書の内容はお互いに矛盾していません。「天地を造られた神」、「イスラエルという民について」、「神がイエス・キリストをこの地上に送るといふ預言」、そして「イエス・キリストについて」がその主な内容です。普通の本がこれだけの時間をかけて書かれ、これだけ多くの記者をもち、しかもどこをとってもテーマが同じ、なんていうことは普通ありませんね。どうしてこんなことができたのでしょうか。

それは唯一の神様が、多くの記者たちに記すことばを与えられたからです。ですから、内容はお互いに矛盾しません。聖書は、神様の霊（聖霊）によって書くことを教えられた人々が書き記したのです。聖書自体がこのことを「**聖書はすべて神の靈感による**」（II テモテ 3:16）と記しています。つまり、聖書は神様によって書かれたのです。

2. 聖書にはどんなことが書いてあるのでしょうか？

(1) 旧約聖書は全部で 39 巻あります

・モーセ五書（創世記～申命記） 最初の 5 つはモーセ五書と言われ、記者はモーセです。神様がこの天地をお造りになったことから始まり、神様の愛を私たちに示すためにイスラエルという一つの民族を選ばれたこととその民の歩みが記されています。

・歴史書（ヨシュア記～エステル記） モーセ五書に続く書は歴史書と呼ばれます。歴史書に分類される列王記や歴代誌は、主にイスラエルの王の列伝です。どれほどイスラエルの民が神さまを裏切ってきたか、逆に神様がどれほど忍耐強く愛されたかが記されています。

・詩書（ヨブ記～雅歌） 神様をほめたたえる祈りの詩である詩篇、この世の苦しみの意味を記しているヨブ記などは、詩書と呼ばれます。その中でも、神様の知恵に満ちている箴言、伝道者の書は、知恵の書と呼ばれます。

・預言書（イザヤ書～マラキ書） イザヤ書、エレミヤ書など旧約聖書の後半にならんでいる多くの預言書は、神様を裏切り続けるイスラエルの民に、預言者を通して神様に立ち返るようにと語られる神様の愛のメッセージが含まれています。あわせてその預言の中に、やがて地上においてになる救い主イエス・キリストのことが書かれています。今私たちは、その預言が確かに実現したことを知ることができます。

（2）新約聖書は全部で 27 巻あります

・福音書 4つの福音書は、この地上にこられたイエス様のご生涯、イエス様の教え、奇跡などが記されています。

・使徒の働き イエス様が天に帰られたあと、弟子たちがイエス様の復活の証人としてイエス様を宣べ伝えたこととクリスチャンが増えて生み出されていった教会について書かれています。

・手紙 迫害の中にあつたクリスチャンを励ましたり、信仰の成長へと導くために、主にパウロやペテロらが教会にあてて書いた手紙です。聖書の教えがまとめられており、理解するためのよい助けになります。

・黙示録 聖書最後の書である黙示録は、この世の終わりについて神様がヨハネに示して下さったことが書かれています。

3. 聖書が書かれた目的は何でしょう？

聖書が書かれた目的は聖書の中にはっきり書いてあります。

「これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである」（ヨハネ 20:31）。

聖書が書かれたのは、それを読む人々がイエス・キリストを自分の救い主であることを信じて、罪が赦され、その結果、神の子とされ、天国に行くためです。聖書を読むと、なぜイエス様が私たちのために十字架にかかれたかがわかります。

もう一つ、聖書には大きな目的があります。それは、私たちに神様のみこころにかなうことはなにかを知らせるためです。聖書には何が正しくて、何が間違っているかが書かれています（ヘブル 4:12）。何が神様に喜ばれることで、何が神様を悲しませることか、と言い換えることもできます。何がよくて何がいけないか、



豆知識

もし聖書がなかったら・・・

昔は、神様のことばを聞いた人々が自分の口で神様のことばを伝えていました。その後、神様はご自分のことばが文字になるようにされました。それが聖書です。聖書があることによって、世界中の人々が変わることのない神のみことばに触れることができるのです。

現在聖書は、世界中にある 6900 の言語のうち、約 2400 言語に訳されており、60 億人以上の人々が読むことができます。聖書は、あらゆる時代、あらゆる地域に住む人々が、神様のことばを知るための神様の知恵なのです。

聖書の基準はとてもはっきりしています。毎日の生活の中で、どう行動したらいいか、神様は聖書を通して私たちに教えてくださるのです。クリスチャンが毎日聖書を読むのはそのためでもあります。

聖書を読むと、神様があなたを愛している、というメッセージが最初から最後まで書かれています。私たちは、聖書を通して、ひとり子イエス・キリストを十字架にかけてくださるほどに私たちを愛してくださっている神様を知ることができるのです。つまり、聖書は神様から私たちに贈られたラブレターなのです。

まとめ

聖書には、むずかしいことばも出てきます。しかしどんな人でも、聖書は神様の助けがないと理解できません。神様の助けがあれば、私たちは聖書の内容を理解することができるのです。ですから、聖書を読むときには、神様が理解を助けてくださるようにお祈りしてから読むことが大事です。神様はご自分のラブレターである聖書を、あなたに読んでほしいのです。

★みことば★

これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、
あなたがたが信じるためであり、また信じて、
イエスの名によっていのちを得るためである。(ヨハネの福音書 20 章 31 節)

考えてみよう

1. 聖書が書かれた目的はなんですか？
2. 今までに読んだり聞いたりした中で、あなたが好きな聖書の箇所はどこですか？
なぜそれが好きですか？



Lesson 2 神様について

★はじめに★

日本には神様と名のつくものがたくさんあります。でも聖書は本当の神様はおひとりであると言っています。聖書は神様について何を言っているかいっしょにみてみましょう。

1. 神様はこの世界を造られた

(1) 天地創造

聖書の最初のことば、創世記1章1節には、「はじめに神が天と地を創造された」と書かれています。聖書によると、神様はこの天地がない時からおられ、この世界をお造りになりました。これを天地創造といいます。どのようにお造りになったのでしょうか。創世記1章3節には、「神は仰せられた。『光、あれ。』すると光があった」と書いてあります。聖書は、神様がことばをもってこの天地を造られたと言っているのです。

自然を見て、神様が生きておられること、神様の素晴らしさを感じる人がいます。ある科学者は、「自然や生き物について知れば知るほど、だれかがこれをデザインして造ったに違いないと思う。偶然の連続がこれほどすばらしいものを造れるわけがない」と言っています。宇宙や地球の不思議、海の底にいる私たちの知らない生物、自然が絶妙な秩序で保たれていることなど、この自然の神秘は私たちの想像をはるかに超えています。それは、神様がそれらをお造りになったからです。そして神様は今も人間の力の及ばない自然の秩序を保っておられるのです。

(2) 人間の創造

その神様は、私たち一人一人を神様に似せてお造り下さいました（創世記 1:27）。私たちは人と話し、泣いたり笑ったり、人を愛し、正しいことを行ったりすることができます。それは神様のご性質に似ているからです。それと同時に、私たち一人一人は、顔も性格も違い、とても個性的でユニークです。それも神様のご計画によることです。神様は私たちがまだ胎児のころから、私たちを造り育ててくださっていると聖書は言っています（詩篇 139:13-16）。

(3) 偶然ではない

この世界も私たちも、偶然できたものではありません。もし偶然私たちが生まれてきたのなら、この世界が存在する意味、私たちが生まれてきた意味はどこにあるのでしょうか。この世界が壊れても、私たちが死んでも別に問題はないことになります。神様が意志をもってこの天地と私たちが造られたという事実は、私たちの生き方に大きな影響を与えるのです。私たちはこの世界にとってどうでもいい存在ではありません。私たち一人一人は、神様のご計画の中で、目的があって生まれてきたのです。

2. 神様は唯一であり、3つの位格を持っておられる

「わたしが主である。ほかにはいない。わたしのほかに神はいない」（イザヤ 45:5）とあるように、神様はおひとりであると聖書ははっきり言っています。同時に、聖書を読むと、その

神様は、三つの人格をお持ちの方だということがわかります(マタイ 28:19、Ⅱ コリント 13:13)。神様の人格のことを「位格」という言葉で呼び、唯一の神様が三つの位格をお持ちであることを「三位一体」といいます。三つの位格とは、父なる神様、子なる神様(イエス様)、聖霊なる神様をさし、どなたも愛、義、聖といった神様としての完全なご性質をお持ちです。

教会は神様が三位一体であられることをとても大切にしています。礼拝の最後の祝祷の言葉の中には、「父、子、聖霊」の3つのことばがでてきますね。また特に頌栄歌の中にも、三位一体の神様をほめたたえている曲が多いのに気がついたことがありますか。

神様が三位一体であられることは、クリスチャンにとって感謝すべきことです。私たちは、父なる神様に、イエス様のお名前によって、聖霊なる神様の助けをいただいて、お祈りしています。父なる神、子なる神、聖霊なる神が深く信頼し合いながら、私たちのために働いてくださっているのです。理解するのはむずかしいのですが、神様が三位一体であられることは、私たちにとって大きな恵みなのです。



豆知識

三位一体をたとえを使って表せる？

今まで神様が三位一体であられることを理解するために、いろいろなたとえを使うチャレンジがされてきました。たとえば、三つ葉のクローバー。でも、これではそれぞれの葉は一部でしかないので、いいたとえではありません。水の3つの形(水蒸気、水、氷)。でも、この3つも性質が違ってきますし、御心をもったお方を表すには適切ではありません。3つの役をこなす一人の人(お父さん、夫、サラリーマン)。このたとえも、この3つの役を同時にこなすわけではないので、適切ではありません。どのたとえも、三位一体を完全にあらわすのはむずかしいですね。

3. 神様はイエス様を送ってくださった

聖書は、父なる神様が子なる神様、つまりイエス様を私たちのためにこの地上に送ってくださったと記しています(ヨハネ 3:16、エペソ 1:5)。父なる神様はイエス様がヨルダン川で洗礼を受けられたとき、「あなたはわたしの愛する子。わたしはあなたを喜ぶ」(マルコ 1:11)と言われました。ご自分の愛する子を、私たちのためにこの地上に送ってくださったのです。それは、神様がどのように私たちを愛しておられるかを目に見える形で示してくださるためです。

「御子は、見えない神のかたちであり」(コロサイ 1:15)とあるように、イエス様がどのようなお方かを見れば、神様のご性質を知ることができるのです。

ペテロの手紙は、「神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちを新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました」(1ペテロ 1:3)と言っています。神様は、私たちの罪を赦すためにイエス様をこの地上に送ってくださったのです。

4. 神様は全知全能であられる

「神にとって不可能なことは何もありません」(ルカ 1:37)とあるとおり、神様に不可能なことは一つもありません(全能)。また神様は、なんでも知っておられます(全知)。神様の全知は、私たちの生活や私たちの心の思いにも及びます(詩篇 139:1-6)。神様は全知全能のお方

なのです。クリスチャンはこのことを知っているのです、神様に助けをくださるようにお祈りします。もちろん、神様が私たちの祈りを全部かなえてくださるわけではありません。神様はお祈りをかなえてくれる機械ではないからです。神様は私たちが自分では分からない私たちにとっての最善を考えて、私たちの生活を導いてくださるのです。私たち一人一人のすべてを知っておられるので、それがおできになるのです。

まとめ

神様は生きて働いておられる方です（1列王記 17:1、詩篇 18:46 など）。神様は私たちの目では見ることはできませんが（ヨハネ 4:24）、確かに生きておられ、この世界の秩序を保ち、私たちのために働いておられるのです。

★みことば★

山々が生まれる前から 地と世界を あなたが生み出す前から
とこしえからとこしえまで あなたは神です。（詩篇 90 篇 2 節）

考えてみよう

1. 聖書は、私たちは偶然生まれて来たのではなく、神様のご計画の中で愛されて生まれてきたと言っています。私たちが今いるのは偶然ではないということは、私たちの生き方にどのような影響を与えますか？
2. 神様は今生きて働いておられます。あなたはそのことを信じることができるでしょうか？



Lesson 3 人間と罪について

★はじめに★

全知全能の愛なる神様が、とてもすばらしい世界と人間を創造してくださいました。でも、どうしてこの世界には罪があるのでしょうか？ どうして私たち人間は悪いことを考えたり、したりするのでしょうか？ここでは、そのナゾについていっしょに考えてみましょう。

1. 私たちは「神のかたち」として造られた

聖書には次のように書かれています。「神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された」（創世記 1:27）。

私たちが「神のかたち」として創造されたことは、神様の性質である知性、感情、意志を与えられ、神様とつながる者として造られたということです。

私たちがいろいろ考えたり、感じたり、一つのことをやり抜いたりできるのは、私たちが「神のかたち」に造られているからです。また、私たちは神様とつながる者として造られているので、私たちが神様を礼拝して仕えることこそ、人間の本当の生き方なのです。

私たちは「神のかたち」に創造されたので、一人一人には尊い価値があります。「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している」（イザヤ 43:4）。だから、神様の目に尊い存在である人を傷つけること、たとえばいじめのような行為は、神様が悲しまれます。また、私たちには良心が与えられていて善悪の判断ができます。他の人を愛し、この世界を正しく治めていくことができるのも、私たちが「神のかたち」に造られているからです。このように、もともと神様は私たちをこんなにすばらしい者として創造してくださいました。

2. 罪

(1) 罪の始まり

最初に創造されたアダムとエバは、神様と良い信頼関係を持っていました。神様も二人を愛し、必要なものをすべて与えて下さいました。しかし、二人は自分たちが神様のようになりたいくなって、神様の信頼を裏切り、命令を守りませんでした（創世記 3章）。こうして人間は罪を犯すようになってしまいました。

(2) 罪とは？

罪とは、神様が私たちに期待されている生き方からずれることです。あなたの内には、他の人をねたんだり、きらったりする思いはないでしょうか。人をいじめたり、無視したりすることはないでしょうか。いやなことを言ったり、メールにひどいことを書いて、人を傷つけたことはないでしょうか。人を外見や成績だけで評価することはありませんか。こういったことはすべて、神様が私たちに期待されている生き方からずれている罪です。

罪の中心は、神様を神様として認めないことです。一番大切にしなければならない神様よりもほかのものを大切にすることが、罪の中心です。十戒の第一戒には、「あなたには、わたし

以外に、ほかの神があってはならない」(出エジプト 20:3) と教えられています。つまり、神様以上に他のものを大切にすることはすべて偶像礼拝(ニセモノをおがみ従うこと)になるのです。自分の願い、趣味、成績、アイドルなど、神様以上に価値を置くものがあるなら、神様を神様として認めない罪なのです。

(3) 罪の範囲

すべての人間が例外なしに罪人です。パウロは「すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず」(ローマ 3:23) と書いています。また、罪は私たちの全人格(肉体、理性、感情、意志)に影響しています。罪によって、私たちに与えられている「神のかたち」がなくなったわけではありませんが、大きなダメージを受けて、神様よりも自分中心の思いに支配されるようになってしまいました。

3. 他の人と世界への影響

(1) 他の人との関係

私たちは他の人を愛せるように神様によって造られました。ところが、罪によって自己中心的になればなるほど、他の人と争いが起こります。他の人の立場に立って共感したり、愛することもできなくなります。

「あなたがたの間の戦いや争いは、どこから出て来るのでしょうか。ここから、すなわち、あなたがたのからだの中で戦う欲望から出て来るではありませんか。あなたがたは、欲しても自分のものにならないと、人殺しをします。熱望しても手に入れることができないと、争ったり戦ったりします。自分のものにならないのは、あなたがたが求めないからです」

(ヤコブ 4:1-2)。

(2) 世界への影響

神様は世界をすばらしいものとして創造され、私たちにその世界を正しく治める責任を与えられました。ところが私たちに罪が入ってしまったために、人間が築いてきた社会も、罪に誘いやすい仕組みを持っています。神様から与えられている性を社会や家庭の祝福のために用いるのではなく、快楽やお金のために使うことが多く見られます。また、世界を正しく管理するのではなく、資源を浪費し環境を破壊し、他の国や人々から奪い取ることも行われています。

あなたの学校では、差別や不公平はないでしょうか。自分がバイトしている会社が不正をしていることがあるかもしれません。あるいは、私たちが所属する日本が、他の貧しい国の資源や労働力を利用して豊かになっている面もあります。悲しいことに「この世」全体が、罪の影響を受けているのです(1ヨハネ 2:15-17)。

4. 罪の結果

罪のもっともはっきりした結果は死です。「罪の報酬は死です」(ローマ 6:23)。罪によって、私たちの人格全体が神様から離れてしまいました。これを「霊的な死」と言います。神様から離れると、神様を認めたり、正しい判断をすることができなくなります。

神様は愛なる方であるとともに、とても聖く正しいお方です。ですから、罪を罰しないままにされることはありません。それは、神様の愛から出ていることでもあるのです。

神様は私たちに罰を与えることによって、間違いに気づかせ、そこから離れさせ、ご自分に立ち返ることを望んでおられます。

私たち人間は罪深いですから、自分を救い出すことは絶対にできません。それはちょうどおぼれている人が自分で自分を救うことができないのと同じです。罪の根本的な解決は人間にはできません。

まとめ

私たち人間は、最初に「神のかたち」として神様にすばらしく創造されたのですが、神様に逆らって罪を犯してしまいました。罪は、個人にも人との関係にもこの世界にも大きな影響を与えています。罪あるままでは私たちは霊的な死（滅び）に至ります。私たちを罪から救うことができるお方は、イエス・キリストだけです。

★みことば★

神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、
男と女に彼らを創造された。（創世記 1 章 27 節）
罪の報酬は死です。（ローマ人への手紙 6 章 23 節）

考えてみよう

1. あなたはどんな時に自分が「神のかたち」に造られているとわかりますか？
2. あなたは、自分にどんな罪があると思いますか？



Lesson 4 イエス・キリストについて

★はじめに★

私たちが罪から救うことのできる唯一のお方、イエス・キリストとはどのようなお方なのでしょうか？「イエス・キリスト」は名前と苗字ではありません。イエスとは「主は救い」という意味の名前です。「キリスト」はヘブル語のメシヤをギリシャ語に訳した言葉で、「救い主」という働きを表しています。

1. イエス様の生涯

(1) イエス様の誕生

ヨハネの福音書 1 章 14 節に「**ことばは人となって**」とあります。まことの神様であり真理であるイエス様が人間となって地上に生まれてくださいました。イエス様は神様がどんなお方であるかを教えてくださったのです。「**いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである**」(ヨハネ 1:18)。

マリヤは、聖霊によってイエス様を身ごもりました。イエス様は神の御子として罪のない方として誕生しました(マタイ 1:18-25、ルカ 1:30-35)。そして家族を支え、両親を助け、大工として働きました(ルカ 2:51-52)。

(2) 救い主としての働きのスタート

およそ 30 歳になった時、洗礼を受け、サタンの誘惑に勝利して、救い主として活動を開始されました。「**時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい**」(マルコ 1:15) と教え、神の言葉を伝え、神の国が始まったことを示す数々の奇跡をおこなわれました。

またある時、イエス様は弟子たちに「**あなたがたは、わたしをだれだと言いますか**」と尋ねられました。ペテロは「**あなたは生ける神の子キリストです**」と答えました(マタイ 16:15-16)。その時からイエス様は、多くの苦しみを受け、十字架にかけられ、そして三日目によみがえられることを弟子たちに教え始められました(16:21)。イエス様の質問にあなたは何と答えますか。

(3) 十字架と復活

イエス様は十字架につけられる前の夜、弟子たちの足を洗って神様の前にへりくだることを教えられ(ヨハネ 13:1-17)、聖餐式を守ることを教えられました(マタイ 26:26-29)。その後、ゲツセマネの園で祈られ、ローマ兵とユダヤ人によって捕らえられました。

そしてその翌日、イエス様は極悪人の処刑方法であった十字架にかけられて死なれました。しかし言われたとおり、3 日目に死者の中から復活して、死に打ち勝たれました。復活は悪に対する主の完全な勝利を意味します。

その後 40 日の間、多くの弟子たちに現れ、「**わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とみなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつも**

あなたがたとともにいます」(マタイ 28:18-20) という約束と、再び来られることを約束して、天に昇られました。

2. イエス様の死と復活の意味

(1) イエス様の十字架の死の意味

イエス様は私たちの身代わりとなって死んでくださいました。イエス様は罪の奴隷となっている私たちを解放するために「身代わり」としてご自身をささげてくださいました。「神は、罪を知らない方を私たちのために罪とされました。それは、私たちがこの方において神の義となるためです」(II コリント 5:21)。

また、イエス様は神様と私たちとの壁を取り除いて、和解(仲直り)させてくださいました。「神はキリストにおいて、この世をご自分と和解させ、背きの責任を人々に負わせず、和解のことば(注:福音)を私たちに委ねられました」(II コリント 5:19)。

(2) 復活の意味

イエス様は私たちを救うために十字架で死なれただけでなく、罪と死とサタンに打ち勝ってよみがえられました。

パウロは次のように書いています。「キリストがよみがえらなかったとしたら、私たちの宣教は空しく、あなたがたの信仰も空しいものとなります。・・・そして、もしキリストがよみがえらなかったとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今もなお自分の罪の中にいます」(I コリント 15:14,17)。

イエス様の復活は、私たちが確かに救われていることを示してくれます。イエス様を信じるなら、あなたの内にも、イエス様を死からよみがえらせた神様の力が働いてくださるのです。そして今も生きておられるイエス様が、私たちを天国にまで導いてくださるのです。

3. イエス様による救い

イエス様が地上に誕生されたのは、私たちの救いのためでした。

「神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。」(ヨハネ 3:17)

私たちを救うことができるのはイエス様しかいません。

(1) イエス様は神であり人である

「キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。」(ピリピ 2:6-7)

私たちは罪の状態から自分を救い出すことができません。父なる神様は、何とかして私たちに救おうとして、大切な御子イエスを十字架にかけてくださいました。

イエス様は神であられるのに、私たちと同じ本当の人間として来られたので、人間を代表して私たちを救うことができたのです。

(2) イエス様には罪がない

罪がある人は、自分の罪のために裁かれるので、他の人を救うことはできません。しかし「キリストは罪を犯したことがなく、その口には欺きもなかった」(1ペテロ 2:22)とあるように、イエス様は罪のない方でした。したがって、イエス様の死は自分の罪のための死ではありませんでした。それはすべての人の罪を救うためのものだったのです。

「正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。」(1ペテロ 3:18)

まとめ

イエス様の十字架以外に私たちの救いの方法はありません。イエス様の死と復活は、あらゆる時代のすべての人を罪から救うことができるのです。

救いはただで与えられた恵みですから、神様がなしてくださったことを心から感謝し、応答としてイエス様を救い主として信じましょう。

★みことば★

神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。(ヨハネの福音書 3章 17節)

考えてみよう

1. イエス様の死と復活にはどんな意味があるでしょうか？
2. イエス様とあなたにはどんな関係がありますか？



Lesson 5 救いの決心

★はじめに★

私たちの誰もが罪人です。けれどもそんな私たちを救うために、イエス様が十字架にかかって死んでくださいました。この課では、どうしたら救われるのかを具体的に学んでみましょう。

1. 救われるためには？

救われるためには、自分の罪を悔い改めることと、イエス様を救い主として信じる必要があります。

(1) 悔い改め

悔い改めは神様を認めないで、自分勝手に生きてきた罪の人生にさようならをして、神様を信じて生きる方向に向きを変えることです。

Lesson 3 で学んだように、すべての人が例外なしに罪人です。そして、罪は私たちの全人格（からだ、理性、感情、意志）に影響しています。この罪の結果は、永遠の滅びです。私たちは、罪から自分を救い出すことは絶対にできません。罪の解決は、キリストを信じることによる救いしかありません。

「もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」（1ヨハネ 1:8-9）

あなたも自分の罪を悔い改めませんか？ 今まで、本当の神様を信じて従ってこなかったことを、神様の前に心からおわびしましょう。神様が期待されている生き方に達しない罪の生き方を悔い改めましょう。

(2) 信仰

聖書にはこのように書かれています。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」（ヨハネ 3:16）

神様はあなたを愛して、ひとり子イエス様をあなたのもとに送って下さいました。イエス様はあなたの罪のために十字架にかかって死んで下さいました。そして死からよみがえって、私たちが天国に行くために、永遠のいのちを用意して下さいました。

信仰とは、

- ① イエス様が罪人である私の身代わりとなって十字架で死なれたこと、私を天国に導くために死からよみがえられたことを信じることです。
- ② そのイエス様を救い主として信じて永遠のいのちをいただくことです。

(3) 救いの決心

次の2つの質問に YES と答えることができますか？

①あなたは、今まで本当の神様を神様として認めず、神様から期待されている生き方からずれていた罪人だと認めますか？

②あなたはイエス様が自分の罪のために身代わりとなって十字架にかかって死んでくださったことを信じますか？

ローマ人への手紙 10 章 10 節には、「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです」とあります。自分の罪を認め、イエス様を救い主として信じる決心のできた人は、次のお祈りを自分の祈りとして、声を出してお祈りしましょう。

「天の父なる神様。私は今まであなたを無視して自分勝手に生きてきました。あなたから離れた罪人でした。どうぞお赦してください。イエス様がこんな私の罪を身代わりに負って、十字架で死んでくださり、3 日目によみがえってくださったことを信じます。イエス様を私の救い主、人生の主として私の心にお迎えします。どうぞ聖書のお約束通り、私の罪を赦し、神の子どもとして新しい人生を歩ませてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン」

このお祈りをすることができた人は、罪から救われたクリスチャンです！神様はあなたのために救いの恵みを用意してくださっています。

2. 神様の救いの恵み

イエス様を救い主と信じた人のために、神様が用意してくださっている救いの恵みの代表的なものは、義と認められることと神の子とされることです。

(1) 義と認められる

イエス様を救い主と信じた人は、神様から見て義（正しい）と認められました。このことを義認といいます。義認は、ちょうど裁判官が罪を犯した人に無罪宣告をするようなものです。本当は有罪である私たちがイエス様の正しさによって、神様の裁きを受ける必要がなくなりました。

「働きがない人（注：私たち）であっても、不敬虔な者を義と認める方（注：イエス様）を信じる人には、その信仰が義と認められます。」（ローマ 4:5）

(2) 神の子とされる

イエス様を救い主と信じた人は、神の子どもとして受け入れられました。

「しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。」（ヨハネ 1:12）

①イエス様を救い主と信じた人は、神様の子どもになったので、神様からの愛を受けて、神様を愛することができるようになりました。人が創造された時に持っていた神様との関係が回復

されました。

「わたしの戒めを保ち、それを守る人は、わたしを愛している人です。わたしを愛している人はわたしの父に愛され、わたしもその人を愛し、わたし自身をその人に現します。」(ヨハネ 14:21)

②イエスを救い主と信じた人は、相続人として神様の栄光を受けることができます。

「御霊ご自身が、私たちの霊とともに、私たちが神の子どもであることを証ししてください。子どもであるなら、相続人でもあります。私たちはキリストと、栄光をともに受けるために苦難をともにしているのですから、神の相続人であり、キリストとともに共同相続人なのです。」(ローマ 8:16-17)

③イエスを救い主と信じた人は、神様に愛されているゆえに神様の訓練を受けます。

「訓練として耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が訓練しない子がいるのでしょうか。・・・霊の父は私たちの益のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練されるのです。」(ヘブル 12:7,10)

この訓練によって、救われた私たちは聖い者へと変えられていきます。

まとめ

私たちは今まで本当の神様を神様として認めず、神様から期待されている生き方からずれていた罪人でした。その罪人のためにイエスが身代わりとなって十字架にかかって死んでくださいました。ですから悔い改めて、イエスを救い主と信じた人は、クリスチャンになり、神の子どもとなることができます。そうして人間が本来歩むべき生き方に帰っていきましょう。

★みことば★

人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。

(ローマ人への手紙 10 章 10 節)



Lesson 6 洗礼について

★はじめに★

あなたは、教会で洗礼(バプテスマ)式を見たことがありますか? 洗礼式は、イエス様を救い主として信じた人がその信仰を神様と教会の前にはっきりと言い表す時です。この課では、洗礼式について考えましょう。

洗礼式にはふつう式文が使われます。式文の式辞(式の始めに読む文章)は、洗礼の意味をととてもよくまとめています。ここでは一つの式文の文章を例にして、洗礼の意味について考えてみましょう。

「ただいまから、御前に立つ〇〇兄弟(姉妹)の洗礼式を執り行ないます。

洗礼は、主イエス・キリストが制定された礼典であって、父と子と聖霊の御名によって施されます。(式文①)

すべての人は罪の中に生まれ、その思いとことばと行為においてみこころにかなわず、罪のうちに滅びる者でした。神はイエス・キリストの贖いによって、信じるものを義としてくださり、永遠のいのちを約束されました。洗礼は、主イエス・キリストにあって、罪に対して死に、神に対して生きる者とされ、(式文②)

イエス・キリストの体である教会の枝として加えられる印です。(式文③)

洗礼を受ける者は、『もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が、この世に生きているのは、私を愛し、私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです』と新たに決意しなければなりません。(式文④)」
(日本同盟基督教団式文より)

1. イエス様が定められた(制定された)もの (式文①)

(1) 洗礼を受けるのはイエス様の命令に従うこと

復活されたイエス様は、弟子たちを集めて大切な命令(大宣教命令)を伝えられました(マタイ 28:19-20)。その中でイエス様は、弟子たちに「父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマ(注: 洗礼)を授け」なさいと命じられました。それで初代教会のクリスチャンたちはイエス様の命令に従って洗礼を受けて、弟子に加えられました(使徒 2:41)。

ですから私たちもイエス様を救い主として信じる決心をしたら、イエス様の命令に従って洗礼を受けることができるようにお祈りしましょう。

(2) 父、子、聖霊の神様の守りの中で生きる

「父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け」(マタイ 28:19)

このことは三位一体の神様—父なる神様、子なる神様(イエス様)、聖霊なる神様—が、これからは私たちの信仰生活を守り導いて下さるといことです。私たちはクリスチャンとして自分の力だけでがんばらなくてもいいのです。いつも三位一体の神様があなたを守り、導いて下さいます。だから安心して信仰の道を進みましょう。

2. 洗礼式は、イエス様の救いを確認するとき(式文②)

洗礼式は、私たちがイエス様の十字架によって罪から救われたこと、古い人（神様に逆らう性質）がイエス様といっしょに、十字架につけられて死んでしまったことを確認する時です（ローマ 6:6-7）。そしてイエス様を信じた私たちが、イエス様といっしょに新しいのち（神様に従う性質）によみがえったことを確認する時です（ローマ 6:8-11）。

私たちは洗礼を受けることによって救われるのではなく、イエス様を信じて救われたから洗礼を受けるのです。洗礼は、そのことをしっかりと確認するときです。

3. 地域の教会の一員になるとき(式文③)

私たちは洗礼を受けることによって、イエス様のからだである教会の正式なメンバーになります。式文では、そのことを「教会の枝として加えられる印」ということばで表しています。

使徒の働き 2 章 41-42 節を読むと、ペンテコステの日にペテロの説教を聞いて、イエス様を救い主として信じた人たちは、洗礼を受けて正式に教会のメンバーになりました。そしてみんなで祈り合い、助け合い、励まし合いました。

私たちも洗礼を受けて、自分の教会の正式なメンバーになって、イエス様のからだである教会に仕えるものになりましょう。

4. イエス様のために生きることを決心する(式文④)

イエス様はあなたを愛して、あなたを罪から救うためにいのちを捨ててくださいました。またイエス様は、毎日あなたといっしょにいて(マタイ 28:20)、あなたを全力で守ってくださいます。パウロはイエス様にそのように愛されて生きている自分のことを、ガラテヤ人への手紙 2 章 19-20 節でこのように言いました。

「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。」

イエス様がこのようにあなたを愛して、大切にしてくれていることが分かったら、あなたはそのことにどうやって答えていきますか？これからも自分の好きなことだけをして、自分を楽しませるだけの生き方をしますか？

洗礼式は、私たちを愛して、私たちのためにご自分のいのちを捨ててくださったイエス様のために生きようと決心をあらたにする時です。

「キリストはすべての人のために死なれました。それは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためです。」(II コリント 5:15)

ぜひこれからのあなたの人生を、イエス様を愛して、イエス様を大切に生きて下さい。

まとめ

神様は、イエス様を救い主として信じた私たちが洗礼を受けて、自分の教会の正式なメンバーになって神様に仕えて生きることを喜んでくださいます。

洗礼を受けるためには、具体的にいくつかの準備が必要です。次の準備はできていますか？

- ・ イエス様を救い主として信じましたか？
- ・ 教会学校や礼拝に、自分から進んで、定期的に出席していますか？
- ・ 教会のメンバーになって、神様に喜んで仕えたいと思っていますか？
- ・ 洗礼を受けることについて保護者の許しがありますか？

教会の牧師や教会学校の先生と相談してみましよう。きっと良いアドバイスや助けをしてくれますよ。



豆知識

洗礼の方法

教会によって洗礼式は、からだを水の中につける浸礼(しんれい)という方法と、頭に水をたらす滴礼(てきれい)というふたつのやり方でされています。あなたの教会はどちらのやり方をしていますか？

★みことば★

というのは、キリストの愛が私たちを捕らえているからです。私たちはこう考えました。

一人の人がすべての人のために死んだ以上、すべての人が死んだのである、と。キリストはすべての人のために死なれました。それは、生きている人々が、もはや自分のためにではなく、自分のために死んでよみがえった方のために生きるためです。

(コリント人への手紙第二 5 章 14-15 節)

考えてみよう

1. 洗礼を受けることはどうして大切なのでしょうか？
2. 洗礼を受けたら、イエス様のためにどのように生きてしたいと思いますか？



Lesson 7 教会生活

★はじめに★

クリスチャンは、毎週日曜日に教会に集まります。あなたも神様を信じてクリスチャンになるなら、その一人になってくださいね。さて、教会とはどんなところなのでしょう？ また、教会は何をするところなのでしょう？

1. 「教会」ってなに？

聖書は教会について、私たちにわかるようにいろいろなことばで表現しています。

(1) 召し出された群れ

「教会」ということばを聞いて、あなたは何を思い浮かべますか。多く人は、屋根の上や外壁に十字架がある建物を指して「教会」と言うかもしれませんが、しかし「教会」とは、もともと「召し出された群れ」という意味を持ったことばです。ですから、厳密に言うとな建物を指しているではありません。聖霊によって召し出された者たちの群れ、つまり神様を信じる人たちの集まりを「教会」と言います。

「神は真実です。その神に召されて、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられたのです。」

(1 コリント 1:9)

(2) キリストのからだ

教会は「キリストのからだ」です(1 コリント 12:27)。かしら(頭)がイエス・キリストで(コロサイ 1:18)、それにつながっているからだの一部に、私たちがいるのです。ある人は目であり、ある人は手であり、ある人はひざであり…。いろいろな性格や賜物を持った人が、いろいろな役割を担い、一つの教会を形作っていくのです。

大切なのは、かしら(頭)であるイエス・キリストにちゃんとつながっていることです。イエス・キリストの思いを受けて一人一人が働き、一つとなって動いていくのです。そうでなければ、からだ(教会)はバラバラになってしまいます。教会の牧師や役員たちは、イエス様の思いは何かを考えながら、教会を導いているのです。

(3) 神の家族

聖書は教会を「神の家族」と表現しています(エペソ 2:19)。様々な年代や職業の方が、互いに励まし合い、慰め合い、助け合い、愛し合って、いっしょに歩んでいきます。家族ですから、ある時にはけんかをするかもしれませんが、ゆるし合い、和解するのです。教会はそうやって一人一人が成長していく神の家族です。

ですからクリスチャンは、教会に集まるほかの人たちとの「交わり」を大切にします。神の家族とともに礼拝し、聖書を学び、祈り合い、奉仕をします。また、いっしょに食事をしたり、遊んだりします。そのようにいっしょに過ごす時間を、あなたも大切にしてください。

2. 教会は何をするところ？

では、神様が教会に与えてくださっている役割は何でしょうか。

(1) 礼拝と聖礼典

私たちは、イエス様の復活を記念して毎週日曜に集まり、礼拝をささげます。聖書のみことばが読まれ、そこから説教（メッセージ）を聞きます。また神様への感謝と説教への応答として神様を賛美します。そして心を合わせて祈ります。教会では、この礼拝の時間を最も大切にしていますから、あなたもぜひ、礼拝式に出席してくださいね（使徒 2:42）。

また「洗礼式」と「聖餐式」を「聖礼典」と呼びます。イエス・キリストの救いを信じた時、まず洗礼を受けます。そして定期的に礼拝の中などで聖餐式を行います。聖餐式では、十字架の上で裂かれたイエス様のからだを意味するパンと、流された血を意味するぶどう液が入った杯をいただきます。それらをいただく時、イエス様が私のために十字架にかかってくださったことを、思い浮かべるのです。そしてこの聖餐を、私たちは天国に帰るまで続けていきます（1 コリント 11:23-26）。

この2つが教会で行われる大切な儀式です。あなたもイエス・キリストを信じて、洗礼を受け、聖餐式を受ける人になってくださいね。



豆知識

賛美の歌っているいろいろある・・・

あなたが今通っている教会の礼拝ではどんなタイプの賛美の曲を歌っていますか？伝統的な「讃美歌」「聖歌」などを歌っている教会も多いでしょう。また、ギターやバンドの伴奏が似合う曲を歌っている教会もあるでしょう。最近ではメジャーになっている“ゴスペル”（「福音」という意味です）という音楽ジャンルも、アメリカの黒人教会の賛美の曲が元になっています。賛美に優劣はありません。どのジャンルであっても主への尊いささげ物なのです。

(2) 奉仕、献金

私たちはクリスチャンになると、神様に喜ばれる生き方をしたいと思うようになります。また、自分の持っているものを神様に献げる生き方をしたくなります。それが、「奉仕」と「献金」という具体的な形になります。

「奉仕」は時間と労力を献げるもので、礼拝の司会や奏楽、礼拝堂の掃除、食事作りなど、いろいろあります。教会が必要としていることはたくさんあります。牧師や教会学校の先生と相談して、あなたにできる奉仕から取り組んでみましょう（1 ペテロ 4:10-11）。

「献金」はお金を献げるものです。月定献金（十分の一献金）、感謝献金、指定献金など、いろいろな献金があります。指定献金の中には、会堂を建てるためや維持するための会堂献金、宣教師を支援するための国外宣教献金や、国内の開拓伝道を支えるための国内宣教献金もあります。このような神様に献げられた奉仕や献金によって、教会の働きが支えられています（II コリント 9:6-8）。

(3) 宣教

宣教とは、神様の愛について、イエス・キリストの十字架について、まだ知らない人々に伝えていくことです（マタイ 28:19-20）。

私たち一人一人も、自分の家族、友人などに神様を紹介します。教会としても、コンサートやバザーやいろんな企画をして教会に招き、多くの人々にキリスト教に触れていただこうとします。また国外へ宣教師を送り、それぞれの教会が支援することで神様のことが世界中に伝え

られています。

教会のあらゆる活動が、宣教を目的としていると言えます。たとえば、春、夏、冬の休みにある楽しいバイブルキャンプも、参加した人たちに神様の愛を伝えることを第一の目的としています。

まとめ

教会は、信仰の仲間や神の家族のいる楽しいところであってほしいですね。でも教会でもいろんな問題が起きることもあるでしょう。クリスチャンは、罪が赦されている人ですが、罪がなくなっている人ではありません。私たちは教会の中で、天国に入るのにふさわしい人に次第に変えられていく「工事中」の人間なのです。ですから、互いにゆるし合いながら、成長していきたいと思います。それこそが、神の家族だと言えるでしょう。そして助け合いながら、励まし合いながら、神様の愛を伝えていく教会でありたいと思います。

★みことば★

ちょうど、からだの一つでも、多くの部分があり、
からだの部分が多くても、一つのからだであるように、
キリストもそれと同様です。(コリント人への手紙第一 12 章 12 節)

考えてみよう

1. あなたのいる教会で、一番年下の人は何歳ですか？また一番年上の方は、何歳ですか？
2. 教会であなたが楽しいと感じることは何でしょうか？
3. あなたは、どんな奉仕ができると思いますか？



Lesson 8 クリスチャンの生活

★はじめに★

このテキストもとうとう最後になりました。でも、クリスチャンの生活は、テキストが終わったから「終了」とか、何年たったから「卒業」ということはありません。学びが終わってからも、クリスチャンの生活は続きます。クリスチャンの生活とは何でしょうか？

クリスチャンの生活とは「神様とともに生きる生活」です。神様との関係がだんだんと深められていくのを経験するのは、クリスチャンにとっての大きな喜びです。そして、クリスチャンには、この喜びをまだ神様を知らない人たちに広げていくすばらしい使命があるのです。ここでは、クリスチャンとして成長するために必要な「聖霊の働き」「神様との関係を深める（ディボーション）」「証しすること」について学びましょう（詳しくは受洗後の学びのテキストで学びます）。

1. 聖霊の働き

(1) もう一人の助け主

イエス様を救い主として信じた人は、聖霊による新しいのちの力によって成長します。聖霊はイエス様を救い主として信じた時から、私たちの中に住んでくださるお方です（1コリント 6:19-20）。イエス様はこのお方を「もう一人の助け主」として紹介されました（ヨハネ 14:16）。クリスチャンの生活を導いてくださるのは聖霊です。聖霊は私たちが神様に従って生きることができるよう、私たちに

助けてくださいます。

(2) イエス様を伝える力をくださる

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります」（使徒 1:8）。ペンテコステの日に聖霊が下った時、弟子たちは力を受けて、イエス様のことを伝え始めました。聖霊は、私たちがイエス様を伝える証人として育て、私たちのことばと生き方を通して、イエス様を信じる人たちを起こしてくださいます。

2. 神様との関係を深める（ディボーション）

多くのクリスチャンは、毎日一人で聖書を読み、神様にお祈りする時間をもっています。イエス様は朝早く、静かな場所で、天のお父様との祈りの時間を持っておられました。最初は5分くらいの短い時間からでもOKです。神様の愛をいっぱいを受けて、一日を始めましょう。

(1) みことばを読む

〈聞く〉 聖書を読むことは、神様の語りかけを聞くことです。神様は聖書のみことばによって、いつも私たちに語りかけてくださっています。毎日食事が必要なように、クリスチャンには毎日聖書を読むことが必要です。神様はみことばによって私たちに霊的に養ってくださるお方だからです。

『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばで生きる』と書いてある。(マタイ 4:4)

〈思いめぐらす〉 聖書を読んで心に残ったみことばは、次の問いを助けにしながら、一日に何度も思いめぐらしてみましよう。

- ・このみことばを通して、神様は私に何を語っておられるのだろうか。
- ・今日どのようにしたらこのみことばを実行できるだろうか(ヤコブ 1:22)。

(2) 祈り

〈天のお父様との会話〉 祈りとは、神様と話すことです。イエス様はいつも神様を「お父さん」と呼んでおられました。イエス様は私たちに、天のお父様に呼びかける「主の祈り」を教えてくださいました(マタイ 6:9-13、ルカ 11:2-4)。うれしかったこと、悩んでいること、学校、家族、友達のこと、将来のこと。神様はあなたのすべての祈りをいつでも、どこでも、聞いていてくださいます。

〈どう祈る?〉

- ・賛美、感謝 まず神様のすばらしさを賛美すること、神様がしてくださったことを「感謝します」と神様に伝えることから祈りを始めましよう。「わがたましいよ 主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな」(詩篇 103:2)。
- ・罪の告白 罪は、あなたと神様との関係を弱くしてしまいます。もし自分が罪を犯したと気づいたときには、すぐに神様に「ごめんなさい」と告白ましよう。神様はイエス様の十字架のゆえに、あなたの罪を赦してくださいます(1ヨハネ 1:9)。
- ・願い 自分の願いを神様に伝えます。また、みことばから教えられたことを実際に行うことができるようにお祈りまします。
- ・とりなし 他の人々のために祈ることを「とりなしの祈り」と言います。教会の中には、あなたのために祈ってくれている人がいます。クリスチャンのすばらしいところは、いつも誰かに祈られているということです。あなたも、教会のみんなのため、家族のため、友達のため、世界のために祈る人になってください。



コラム『みことばを実行する』

私が会社で働いていた時、あいさつしても返事は返ってこないし、あまりかかわりたくないなあという人がいました。ある時、「自分の兄弟にだけあいさつしたとしても、どれだけまさったことをしたことになるでしょうか」(マタイ 5:47)というみことばを読み、自分がその人を避けていたことに気づきました。それから、たとえ返事が返ってこなくても、みことばに従って、自分からあいさつをするようにしました。

3. 証しすること

イエス様のことを伝えることを「証しする」といいます。

(1) ことばによって

すべてのクリスチャンには、イエス様のことを伝えるすばらしい使命が与えられています。自分はイエス様を知る前はどうかだったのか。どうしてイエス様が必要だと気づいたのか。イエス様はあなたをどのように変えてくださったのか。あなたにしか語れない、イエス様とのストーリーがあります。イエス様のことを伝えることができるようにお祈りましよう。

(2) 生き方を通して

クリスチャンは生き方を通して、「世の光」(ヨハネ 8:12) であるイエス様を証しすることができます。「あなたがたは地の塩です。…あなたがたは世の光です。」(マタイ 5:13-14)。現代の世界は、紛争、環境破壊、差別、人身売買などの、人間の罪ゆえの大きな問題を抱えています。私たちの周りでも、いじめや差別、不正などの悪はいつこうにもなくなりません。何が正しくて、何が正しくないのか、多くの人がある答えを見つけることができなくなっている今、クリスチャンの生き方が問われています。クリスチャンはこの世界に神様のみこころが行われるために、「地の塩」「世の光」として、今いる場所に遣わされているのです。

まとめ

クリスチャンの成長を助け、イエス様の証人となる力をくださるのは聖霊なる神様です。聖霊の助けの中で、みことばを聞き、祈ることによって、神様との関係は深められていきます。クリスチャンの使命は、ことばと生き方を通して、イエス様を証しすることです。

★みことば★

しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。
そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、
わたしの証人となります。
(使徒の働き 1 章 8 節)

考えてみよう

1. あなたが神様のことを今一番伝えたい人はだれですか?
2. この世界に神様のみこころが行われるために、あなたには何ができるでしょうか?



Lesson 9 洗礼の証しの準備

★はじめに★

洗礼式では、一般に、洗礼のまえに受洗者が「証し」することになっています。ここでは、「証し」の準備の方法をお伝えします。

「証し」とは、神様が自分に何をしてくださったかを他の人に伝えるものです。洗礼の前に行われる証しは、なぜ洗礼を受けたいと思っているのか、神様はどのように自分を救ってくださったか、イエス様を信じる前の自分はどうかだったか、今はどうかなどをあらかじめ文章に書いておき、それを読む方法が一般的です。神様が何をしてくださったかが伝われば、短くても、文章が上手でなくても問題ありません。大切なのは率直に事実と自分の思いを書くことです。神様がくださった恵みがよく伝わるようにお祈りして、心配せずに書きましょう。あなたの証しを神様は用いてくださいます。

1. ポイントを書き出してみる

まず、ポイントを書き出してみましょう。

(1) 信じる、あるいは受洗を決心する前の自分について

信じる前、受洗を決心する前の自分を振り返ってみましょう。信じる前にかかえていた問題がありましたか？どんなことに悩んでいましたか？なぜ決心ができなかったのでしょうか？すべて細かく告白しなければいけないわけではありません。信じる前、決心する前の自分について、書ける範囲で書いてください。

例 自分に悪いことをした人がゆるせなかった、自分がいやで絶望の中にいた、あまり洗礼が大事だと思わなかった

(2) どのようにイエス様を信じたか

いつ、どこでイエス様を信じましたか？どんなきっかけで信じましたか？どうして信じることにしたのですか？具体的に書くことで、より神様の恵みが伝わりやすくなります。とくに、どうして信じるように導かれたかについて記してください。子どもの頃から教会に行っていた人は、いつ、どこで信じたかはっきりしないかもしれませんが、でも今確かに信じているなら、受洗をなぜ決心したのか、今何を信じているかを書いてください。

例 いつ 2000年〇月〇日あるいは、2000年夏
 どこで 〇〇バイブルキャンプで、教会での学びの中で
 きっかけ 高校の友人に誘われて、小さい時から教会に行っていて
 どうして 自分の罪を赦していただきたいと思ったから、神様に愛されていることがわかったから、自分の問題を解決して下さる方は神様しかいないとわかったから

(3) 信じた後の自分について

イエス様を信じてから、あるいは受洗を決心してから、あなたの人生や生き方、心はどのように変わってきましたか？

例 心が明るくなった、問題は解決していないのに平安になった、神様におまかせできるよう

になった、きれいな友人をゆるせるようになった

(4) みことば

イエス様を信じるきっかけとなったみことばは何ですか？今イエス様に救われていると確信できるために、あなたを助けるみことばはありますか？もし具体的にわからないと思ったら、牧師やあなたを導いてくれた人に助けてもらってもいいでしょう。迷ったとき、みことばは私たちの確信をゆるがないように助けてくれます。

2. 実際に書いてみる

書き出したポイントをもとに、文章を作ってみましょう。字数は、原稿用紙2～3枚程度(800字から1200字程度)が一般的ですが、もっと短くても構いません。3～4分くらいで話せる長さがよいと思います。詳細は教会によって違いますので、相談してください。

次の二つは実際の証しの例です。

証し例1

小さい頃から「いい子」という評価の中で生きてきた私は、中学2年の頃から、だれに対しても本当の自分を出せないことを悩み始めました。中学3年のとき仲のよかった友人から、生まれて初めて私の性格を批判され、それがもとでその人と卒業まで絶交してしまいました。その後も、私は彼女に傷つけられたことで、彼女を憎み続けたのです。

高校に入学したとき、同じクラスにクリスチャンがいました。私は彼女と親しくなり、やがて彼女に助けられながら、自分で聖書を読むようになりました。その年の夏休みに、その人に誘われ、1週間のキャンプに参加しました。毎日、朝と夜に聖書のお話がありました。3日目の夜に、一人の人が、どうしてキリストを信じるようになったかという話をし、その後に宣教師の先生から、イエス・キリストが十字架にかけられた意味についての話がありました。それは、すべての人は神がいるのに神を無視して自分勝手に生きていること。それが、聖書の言っている罪であり、すべての人の罪のために、キリストが十字架で身代わりの罰を受けてくださったのだということでした。そして、キリストは三日目によみがえったので、このキリストを信じるときに、すべての罪がゆるされて永遠のいのちをいただけるという内容でした。

話を聞いているうちに、友人を憎み続けていることや、自分の性格で悩んでいたことなどが思い出され、何も解決しないでいることに気づきました。そして、今聞いているイエス・キリストというお方がこのことを解決してくれるかもしれないと思い、先生から「今日イエス・キリストを信じれば、あなたの罪はすべてゆるされます。今日信じる人は、手をあげてください。」と言われたとき、イエス様が助けて下さるのに賭けてみようと思い、思い切って手をあげました。私の心の中に、中学時代の友人を憎む心が解決していないという問題が浮き彫りになりました。信仰を持ってから3か月間、聖書を読むたびに「その怒りを捨てて、相手をゆるしなさい」と、迫られました。

私はゆるせないと毎日反発し続けましたが、あるとき新約聖書エペソ人への手紙4章32節のことばを読んで、神に自分がゆるされた者であることが分かり、憎んでいた相手をゆるしますと祈ることができました。その後、大変気持ちが楽になり、中学時代の友人に手紙を書いて、あやまることができたのです。

この体験は、私にイエス・キリストを信じたことが間違いではなかったことを、強烈に刻み付けるものとなりました。

新約聖書 コリント人への手紙第二5章17節「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(1,110字)

証し例 2

大学への進学を機に、この教会に通い始めて、もうすぐ 4 年が経ちます。クリスチャンホームで育ち、物心ついた時には日曜日は教会で過ごすのが当たり前になっていました。信仰を持ったのは、中学生の頃です。日曜学校の中で自分の意見や考えを聞かれる場面が増え、それまで曖昧になっていた部分と向き合い、考えるようになりました。日曜学校の先生から、「イエス様の十字架をただ歴史的事実としてだけで見ているとしたら、それは知識であって信仰ではないよ」と言われました。そして「どう思う？信じている？」と聞かれた時に、自分のこととして信じ受け入れていると言いました。

それから、バプテスマを受けるタイミングは何度かありました。しかし、その時その時で自分の心に何か引っかかるものがあって、素直に受けたいと思えず、告白する勇気が持てずにいました。特に大学生になってからは、このままではいけないと頭ではわかっていても、気持ちはいつも後ろ向きでした。

周りから洗礼はいつ受けるのか聞かれるのが重荷になっていた時期もありました。「就職したら忙しくなるよ」という父からの勧めもあり、大学 3 年生の時に一度はちゃんと向き合おうとしました。ですが、友達との遊びを優先したり、口を開けば愚痴ばかり言う自分がいて、どうすればいいかわからなくなりました。

ですが、神様から心が離れていかないようにお祈りをし、少しずつ変えられていきました。22 年間生きてきて、苦しい時、心配な時、不安な時はいつも神様にお祈りしていました。神様はどんな祈りにも聞いてこたえてくださるお方です。「走ること」で乱れた心を落ち着かせ、その時の空や自然の景色を見て、神様が創造された素晴らしさを感じることができました。毎日の生活の中で神様の恵みを感じ、感謝だなど思えるようになりました。そして、自分の中だけでとどめているのではなく、洗礼を受けて、堂々とクリスチャンとして生きていきたいという思いが強くなりました。本当に自然に決めることができたので、きっかけは特にありません。神様が少しずつ私を変えていってくださったのだと思います。

私は、信じていると思っていても信仰が薄くなってしまったり、神様の御心は違うとわかっていても気づかないふりをしたり、罪をおかしていても罪だと認識できない本当に罪深い者です。今は、それらを自分でどうにかしようとするのではなく、神様により頼み、罪がしめされた時は正直に告白し、信仰は神様が強くしてくださるものと信じられるようになりました。私の罪のために、イエスさまは十字架で死なれ、3 日目によみがえられました。イエスキリストは私の唯一の救い主であることを確信しています。

「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせたと信じるなら、あなたは救われるからです。人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」ローマ人への手紙 10:9-10 (1221 文字)

救いの証しは、聞くクリスチャンにとって神様の恵みを新たに思い、感謝するときです。信じていない方にとっては信じるための助けになるかもしれません。証しすることも神様への尊い奉仕の一つです。ぜひ、祈りつつ、心をこめて準備してください。

★みことば★

あなたの家、あなたの家族のところに帰りなさい。そして、主があなたに、

どんなに大きなことをしてくださったか、

どんなにあわれんでくださったかを知らせなさい。

(マルコの福音書 5 章 19 節)